はじめに

我が国は、全ての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会の実現を目指している。この共生社会の形成に向けて、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念が重要であり、そのためには、特別支援教育を着実に進めていく必要がある。障害のある子どもの就学先決定の仕組みの改正等も踏まえ、通常の学級にも障害や特別の支援を必要とする子どもが在籍している可能性があることを前提に、全ての教職員が特別支援教育の目的や意義、障害に関する知識や配慮等についての正しい理解と認識を深め、組織的な対応ができるようにしていくことが重要である。

そこで、本研究「我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する総合的研究」は、５年間（平成 28～令和２年度）の研究を通して、地域や園・学校におけるインクルーシブ教育システムの構築に向けた現在の取組状況を把握し、さらに取り組むべき事項等が明確になる指標の作成に着手した。

平成 28～29 年度において作成したインクルーシブ教育システムの構築のための「評価指標（試案）」を、平成 30 年度には、研究協力機関である園・学校での試行を経て、「インクル COMPASS（試案）」として修正し、改善を図った。そして、令和元年度においては、研究協力機関である園・学校計 15 機関に「インクル COMPASS（試案）」を使用してもらうことで、その活用可能性について考察した。また、各園・学校でのインクルーシブ教育システムの構築及び推進に向けた主体的取組の事例の収集も行った。

「インクル COMPASS」は、インクルーシブ教育システムの構築及び推進に向けた取組状況について、他の地域や園・学校と比較するためのものではなく、自校（自園）の取組状況を把握し、見通しを持って、今後の取組を具体的に検討し、実践するためのツールとなることを目指して作成した。

現在、各地域や園・学校においてインクルーシブ教育システムの構築に向けた様々な取組がなされている。各園・学校における主体的かつ創造的で、地道な取組状況を振り返ることで、その取組の価値や意義を確認し、さらなる取組を推進していくためのツールとして、「インクル COMPASS」が、園・学校で活用されることを期待する。

研究代表者
インクルーシブ教育システム推進センター
上席総括研究員　　星　祐子